



# 卒業期繰上と 學生の覺悟

學長 法學博士 神戶正雄

大學専門學校に於て、十六年度には三箇月、十七年度には六箇月の卒業期繰上げが行はるゝやうになつた。其は何の爲めの故に行はれたのか。此は全く國家の現時局下に於ける人の必要からである。國家は事變に處する上に、更には迫まり來つたA・B・C・D包圍網を突破するのみに兵員を要することの切なるものがあるからである。

**修學** 期間の短縮といふことは、教育の完成をして不満足のものたらしめるといふ嫌があるには相違ない。特に學問智識を深めるといふ點からは何といふても其だけ不満足のものとはなる。しかし現下の國家的大聖業の達成といふことは、全き國民の、隨つて青年學徒といふ

ものが敢然として協力しなければならぬ使命であつて、其の重大性の爲めの故に、此際右の不満足をば犠牲に供しなければならぬのである。

又一面から見れば、修學期間の短縮されただけ學業の方は之を享受することが乏しいことにはなるけれども、しかし其代りに、當該學徒たちが、此の我國未曾有の

**國難** に際し、幾月かでも早く、より多く、身を以て之に當り聖業の達成といふ使命に参加し得て、大なる精神教育を受けることにて、優に前の智識上の損失を補償し得るといふことが出来る。其上にも人は生死の境に入る機會に遭ふて其腦力を養ひ得るものである。人は

大正十一年六月十五日印刷  
昭和十六年十一月十日印刷  
昭和十六年十一月十五日發行  
編輯人 神戶正雄  
發行所 大正市北區堂島  
上三丁目十五番地  
印刷所 谷口印刷所  
大正市東區川區橋  
中區二丁目十二番地  
關西大學學務局

第一	卒業期繰上と學生の覺悟……………	神戶正雄……………(一)
第二	學問的精神の把握……………	森川太郎……………(二)
第三	學生とスポーツ……………	水谷揆一……………(三)
第四	「御民吾れ」の自覺……………	安川安太郎……………(四)
第五	學内報……………	……………(五)
第六	忠靈塔追祀慰靈祭……………	……………(六)
第七	要目……………	……………(七)
第八	校友……………	……………(八)
第九	……………	……………(九)

## ★現代學生の本務 學問的精神の把握

専門部生徒主事 教授 森川太郎

世程の嵐は靜かなるべき學園をも搖り動かしつゝある。報國團に繼ぐ學校報國隊の結成、卒業期の繰上げ、在學徵集延期々間の短縮等々。矢繼早に實行せられた重大變革に、學校當局と云はず、學生生徒と云はず、茲數ヶ月殆ど目の廻る思ひをしたであらう。固より時局は重大である。學生生徒と雖も一朝事有あらばペンを銃に執りかへて、軍旗の下に馳せ参するの用意は常任なくてはならない。否戦線と銃後を區別せざる今日の戰爭に在つては、其手に銃を執らずとも、或ひは學園に在つて、或ひは家庭に於て、自ら國家防衛の一戰士たるべき覺悟が必要なること勿論である。しかしそれはそれとして、其時到的まで學生生徒として努むべき本分は何であらうか。私は依然として與へられたる夫々の課業に於て勉學を勵むことであると思ふ。而して其勉學を勵むと云ふことは、所定の課業に於て教授せられるあれこれの知識技能を涵養、修得することであるは勿論であるが、同時に其間に一貫して養はるる學問的精神又は學問的訓練を體得することが又重要である。謂ふ所の學問的精神とは物事を組織的に考へ、道理を重んじ、理を追及し理を

精しくするの精神である。近頃世間でよく用ひられる言葉を以て云へば「科學する心」に外ならない。唯科學する心と云ふ場合、科學と云ふ言葉の響きからして更もすれば自然科學的究理心の意にのみ解せられ易いが、汎く物事の理を究めんとする精神たる意味に於ては、科學する心は文化科學乃至精神科學の領域についても、同様に昂揚せられてよい筈である

即ち吾々は法律、經濟、商業、文學等の諸學科について、夫々其内容をなす知識技能の啓發と修得に勉めつゝあるのであるが、其勉學を通じて所謂

科學する心を養はなければならぬ。學生生徒の本分として斯かる學問的精神を涵養することが、今日の時局下に於ても尙大いに努めらるべき要あることを、私は特に云はうとするのである。

今次の大戦に於て先づ世人の耳目を驚かしたものはドイツ軍の驅使せる新銃の諸武器であつた。而して其新銃の武器が發達せる自然科學的知識、工學的技術の賜であることは云ふまでもないであらうこれ等の武器に對して英國側が又若干の對抗的武器を發案し得たことも亦、同様な學問的發達の結果である。而も近代戰の特徴は單に斯くの如き意味に於ける科學戰たるに存するのみではない。更に例へば巨大に消耗せられる軍需資材、國民生活に必要な諸物資を出来るだけ多量に自國側に確保し、敵國側をしてそれ等の涸渇に陥らしめんとする尖鋭なる經

濟戰が又、周密なる計算と謀略を以て戦はれつゝあるのである。而して精緻なる經濟戰の計畫、組織、其果敢なる實行は云ふまでもなく此側面に於ける不撓の究理的精神に依つて可能ならしめられるのである。

故に今日所謂科學する心は、學問のあらゆる部門に於て緊切である。文化科學又は精神科學の分野に於ても、徒らに獨善的なる思辨に耽ることは、許さるべき時機ではない。勿論斯く科學を重んじ理を説くことに對しては、或種の批難が豫期せられ得る。固より私と雖も人事百般、

### ★現代學生の本務 學生とス。ポーツ

經商學部長  
教授

水谷 揆 一

近年我國に於て國民體育の必要が論議的となり、是非其遂行達成を期せねばならぬと云ふ聲が各方面に擴がり、學校特に上級學校關係に於ては、遂に文政當局として、更めて所謂教育の本義なるものの再確認を爲さしめ、我國の教育は、從來兎角智育に偏し過ぎて居たから、今後は、之れに、德育、體育を併せ行つて以て教育の完璧を期することにした、特に體育の振興は現今の急務として、其達成を計らねばならぬ、と云ふ次第で、茲に體育が教育上の重大要素の一として確認された形である。

從來の我國の上級教育が、兎角所謂智

或ひは 歴史の流れ が一切理に従つて決せられぬものと思はない。其處には天來の妙機も働くべく、又時に天變地異の我に幸ひせしこともあつたであらう。けれども今日の時局に於て我々の先づ頼るべきものは、天來の妙機や天變地異であつてはならない。所謂人事を盡して然る後天命を俟つべく、而して人事は理に従つて盡さるゝ外はないのである。

平時に於て學生生徒たるもの、本分が右に謂ふ學問的精神の涵養に努むるに在ることは、敢へて言を俟たないでだらう

あれやこれや斷片的なる知識、技能を修得する機會は、學園以外に於ても少からず存在する。唯世の名利に煩はされず専心究理の道にいそしみ、學問的精神の教養を身につけ得るならば學徒にのみ開かれたる境地である。今日の如き時局下に在つても學生生徒たるものは、此惠まれたる境地とそれに基づく責任とに充分の自覺を持たねばならない。加へて時たらば何時でも、其體得せる知識と教養を以て國家防衛の第一線に立つべき覺悟と用意あるを以て足るであらう。

事新しい問題でも何でもなく、當然過ぎる程當然のことが、更めて云はれたまので、從來とても、教室で講義を聽かせることだけで、「教育」の全部が施されて居たと思つて居たものは、凡そ其道にたづさはつて居た程の人々の間には一人もない筈である。學生が授業時間表に従つて教科書とノートを持つて、夫々の教室に入り、夫々の擔任の教師から講義を聽いてノートにとり、授業が終ると學校を去つて行く。これだけでは、教育がどこにある、どこで行はれて居るのだと云ひたくなる。講義を聽き、ノートにとると云ふ事實が總てである様な氣もする。此事實を繰り返へすことが教育の大部分であるとは云へない様に思はれる。然し、これ以外のことが學生のアカデミックな生活にないとしたら、從來の所謂上級學校教育の切り詰めた姿はこれであ

従つて、これは申すまでもなく、何も

つたとも云へよう。勿論、學生が、親しく其尊敬する先生の聲咳に接し、其説かるゝ處に傾聴する時、そこに大きな感激も感謝もあり、そう云ふ環境と雰圍氣に身を置く幸福と責務を悟るとき、そこに修養も教育もあることは肯定に値するが。

所謂習育に偏したと稱せらるる教育の多くの部分は斯くして行はれて来たのだが、これでは結局、クラスルーム・エデュケーションの範圍を出ない。従つて只これに、プラス體育だけでは、教育の完璧は期せられと思へない。茲に教育の六ヶ敷きがある譯だが、これは、こゝでとりあげるには餘りに大きい問題として遠慮するとして、今、私は、當面の問題となつて居る體育を教育の一要素として考へて見たいと思ふ。

上級學校に於ける體育が如何にして行はるべきであるかと云ふことは、前述の如く體育を教育の一部分として考ふる時に、特に重要な問題となるが、私は其多くの部分は、矢張りスポーツを通じて行はるべきものと思ふ。これは無論、スポーツをどこまでも其使命の本質に於て考へ、其結果として體育の向上を期すると云ふ筋書であつて、勿論、私はスポーツと體育を混同せず、兩者は非常に密接な關係にあるが、然し別個のもの、少くとも別個の立場を持つものとしての前提のもとに云つて居るのである。そこで私は體育と云ふものを、必ずしも之れを正面

からの目的として求めなくても、結果に於て其向上遠成が期せられるのであればそれでよい、否、その方がよいと思ふのである。即ち、スポーツを行ふ結果として體育が期せられると云ふ道行が可能であればこれに依るのが最上であると云ふのである。

由來、體育の遠成を最も効果的に期するには、如何しても興味を必要とする。興味の伴はぬ體育の練成が効果的でないことは醫學上からも云はれる處であるが此點はスポーツの持つ大きな強味でなければならぬ。

而してスポーツはこれによつて單に體育の遠成を期し得るのみならず、其精神的方面に於ける修養、練磨に至つては實に大なるものを期待し得るのであつて、例へば、責任觀念の養成、忍耐力の培養、精進節制の窮行、等に、數へ来れば仲々に盡きぬ程の美點がスポーツには存在するのであつて、實にスポーツの持つ使命は肉體的であると云ふより寧ろ精神的方面により多くがあると云つて過言でないのである。此點より考察する時、スポーツは體育を離れても、尙且、廣義の教育要素中に數へらるべき性質のものである。況んやスポーツが、これにたゞさばる人々のみならず一般國民の意氣の昂揚等に資する處亦實に大なるものあるを思ふ時、スポーツの持つ使命の如何に甚大なるか感ぜざるを得ないのである。私達は、どこまでもスポーツを善導し

★現代學生の本務

御民吾れの自覺

專門部生徒主事 安川安太郎 授

其健全なる發達と普及とを期せねばならぬ。スポーツに伴ふ缺點のみを見て、其全體的立場を顧みざるが如きは思はざるも甚だしきものと云はざるを得ない。國

際オリムピック大會場に於ける日章旗の掲揚に何等の感激も興奮も覺えない様では今日の教育とは凡そ練達い次第であると云はざるを得ぬのである。

時局急進展の折柄、現代學生の本務につき學生への指針を示すやうにと、學報編輯所から執筆を求められたが、指針とまでゆかどうか、思ひつくまへを述べてみることにする。

私はまづ平凡なことを言はう。學生の本務は學業の精勵にある。智徳の練磨、身心の鍛鍊を措いて他に學生の本務はなく、第一に日々の課業に勉勵すること、第二に報國團の事業に熱意をもつて参加すること、第三に餘暇を教養に運動競技に躰位向上に自適に活用することである

てあるとは無論言へないし、また真に知つてゐるのではない。茲にその躬行を慫慂すべく、平凡な立言をする所以である。次に強調したいことは、御民吾れの自覺である。萬葉歌人の歌つた「御民吾れ」

私にまづ平凡なことを言はう。學生の本務は學業の精勵にある。智徳の練磨、身心の鍛鍊を措いて他に學生の本務はなく、第一に日々の課業に勉勵すること、第二に報國團の事業に熱意をもつて参加すること、第三に餘暇を教養に運動競技に躰位向上に自適に活用することである

この功利的個人的思想に墮した宿弊から

門學書閣編高。



身書家段二十

大東書堂編輯部發行 三七四四話

一實一踐 が伴はねば心得

脱すべくめざめねばならない時である。國家が非常時局に直面しながらならば學生をして學業に専念せしめてゐる所以は何か。國家の中堅たるむとする者の養成が大政成にそひ奉り國運の伸長を圖る上に重要な爲である。諸君と同年輩の若者の多くが第一線の兵士として銃を執つて勇戦してゐる事實に奮起し、國家の學生に對する嚮望に深く思を致して、御民吾れの自覺に立ち、學生の本務に精勵しなければならぬ。華國の宏遠を想ひ國

一精一華 教育の淵源を三省して、學を修め業を習ふも一に天壤無窮の皇運を扶翼し奉るに在ることを銘肝しなければならぬ。智徳の鍊磨・身心の鍛錬の窮極の目的は皇運扶翼にありと御民吾れを自覺して、皇國民としての鍊成に邁進することが、現代學生の本務である。

今や我が國は支那事變處理と大東亞共榮圈の確立とを國是として、敵性國家群の包圍下に未曾有の非常時局を突破せむと臨戰態に在る。この義勇公に奉ずべき秋に即應する心構は十分に出来てゐるであらうか。學園の過去一年を振り返つてみても、學友會の發展的解消、報國團の成立やそれに引續く報國隊の結成があり、上級學校進學の制限、卒業期の繰上や徵兵猶豫年限の短縮、或は臨時徵兵検査の施行等、まことに多事多端であつたこの間にあつて、たとひ一時的にせよ、一部分にせよ、認識不十分な者や動搖を

感じた者はなかつたであらうか。もしあつたとすれば、御民吾れの自覺・非常時局の認識を缺き、温室に春を夢みようとする輩である。學生と雖も國家を構成する國民の一員である。國家の危機の外に超然たりうる特權をもつものではなく、國家の消長盛衰とその運命を共にするものであり、進んで國家の隆昌に寄與する

一中一核 たらむとするものである。たゞ國家將來の爲に可能の範圍に於て修學に専念せしめられるものであることを牢記して、皇國民たる自覺に立つて學生の本分を守り、時局の重大性を認識して中外の事勢の推移進展を理解することに努めるべきである。國家により修學が許されるのは、決して消極的なものではない。非常時局下ギリギリの範圍に於てもなほかつ國家永遠の計として積極的に修學の重要が認められてゐるのであつて、その學徒としての使命を痛感し、負荷の大任を全うすべく日常本務の遂行に精進しなければならぬ。しかし臨戰下何時如何なることを國家は要請するかもしれない。學生は國家の如何なる要請にもいつも應じ得る心構をもつておねばならぬ。千二百年の昔、おほみことにより召されたる防人は

今日よりはかへりみなくておほ君の 龍の御楯と出で立つわれは と歌つた。我々は常に大君の御楯となる覺悟をもつてゐるべきで、これこそ日本精神の華であり、我等が祖先の遺風を

顯彰することとなるのである。一現一下の世界情勢は逆暗し難いものがある。時局はいついかなる急進展をみるかわからぬ。この非常時にあたり學生たるものは、御民吾れの自覺に基く不

片岡甚太郎教授譯 C.J.ウオーデン著 文化の發生 刊書店場船 〇六・一

文化のないところにわれわれの理解する如き人間は存在しない。又人間の悠久な姿を想ふことの出来る方法は文化に就いて考へる以上に方法はない、といふことが出来る。然らば文化とはどう定義すれば良いかといふに、複雑多岐な内容をもつ文化を正確に定義づけることは困難とされてゐる。然し文化は自然と對立的に考へられるある人為的なもので、人為即ち人間と文化とは本質的に不可離の關係を有してゐるといふのである。

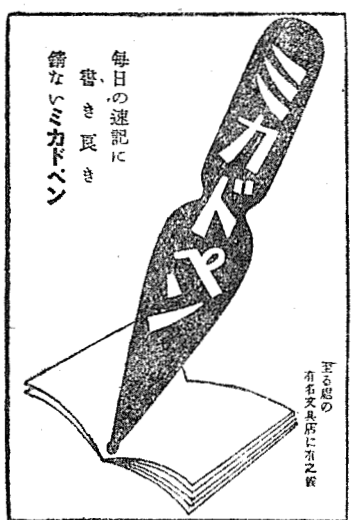
人間文化への我々の關心は地球の生成五千萬年前の祖先類人猿原種の出現、二千萬年前の人間分岐、一千万年前の原始石器、これに次いで古石器、中石器、新石器、青銅、鐵器の諸時代的區別がわれわれの腦裡を掠める。現代の世界死闘の

動の信念を確乎と把持して、皇運扶翼の爲平生泰然として學生の本務たる學業に精勵するとともに、いついかなる事態に際會しようとも直に國家の要請に即應し得る心構をもつておねばならない。

展開も最後の三十萬年の鐵器時代の一部分に屬してゐるわけになる。感情を基底とする人間性は靜止的であり、文化の機構を通じて實現される知性と創意の動的なものは、對蹠的に而もその均衡の上に文明や國家の進展がかゝつてゐると云へよう。人間の感情的所産はその知性、創意によつて更に高度化され、純粹化される、現代の状態はその將來性のために深く、鋭く科學的に分析され、強靱な裏づけが行はれて初めて意義があらう。

今日以上に深く考へ、深く知り、強く行ふ事が必要な時代はなからう。茲に人類文化を背景とした「自己の魂の歴史」を考へ、知る事もむだとは思はれない。

毎日の速記に 書き長き 筆なイミカドペン



イミカドペン 石文堂店に有之



# 學 內 報

## 卒業試験日程

卒業期繰上げ、十二月徴兵検査施行につれて本年度の卒業試験は三ヶ月繰上げられて夫々次の如く行はれる。

授業終了	卒業試験	卒業式
學部 七月廿七日	同 八月五日	七月廿七日
第一部 七月廿七日	七月廿七日	七月廿七日
第二部 七月廿七日	七月廿七日	七月廿七日

## 靖國神社臨時大祭

### 遙拜式を舉行

十月十八日は靖國神社秋季臨時大祭の期間中畏も天皇陛下御親拜の當日に當るので本學に於ては、午前十時十五分千里山、天六兩學舎に於て夫々遙拜式を舉行、護國の英靈に感謝の黙禱を捧げ、時局下學徒の任務重大を併せて痛感したが、千里山學舎では各級毎に隊伍を整へ忠靈塔に参拜、陣歿先輩の英靈に感謝を表し愈々銃後奉公の念を固くした。

## 明治節拜賀式

十一月三日の明治節には學部では午前

九時より、豫科は同九時三十分千里山豫科講堂に於て、又専門部では天六學舎講堂で午前九時三十分より夫々拜賀式を舉行した。

## 忠靈塔追祀祭

一昨年忠靈塔建立、第一回合祀慰靈祭を舉行してより本年十一月一日までの間に戦死、陣歿せられた本學關係者諸氏を合祀する祭典は十一月一日午後二時より千里山同祭場で舉行、遺族を初め學校關係者、學生の外近府縣校友會支部代表の参列もあり、嚴肅裡に第二回合祀慰靈祭を終つた。(別項詳報参照)

## 關西七大學

### 學生主事會議開催

十一月十二日午前十時より本學天六學舎に於て關西七大學學生主事會議が開催されたが、提出せられた議題にも最近の緊迫した情勢に即應するための活潑な動きが見られた。

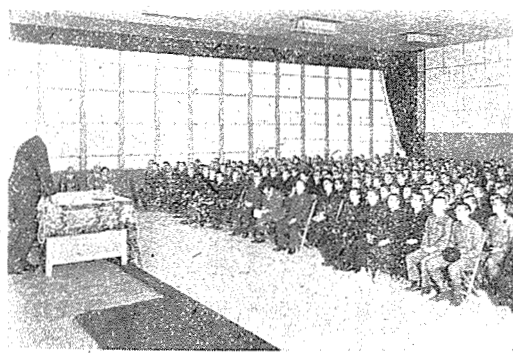
本學提出の議題は

- 一、卒業期繰上げと報國團事業
- 一、體力檢定に關する件

一、學生生徒の出飲調査に關する件  
一、學生生徒の學外生活調査に關する件  
一、學生生徒の福利施設に關する件  
であるが、他大學からも議題があり活潑な討論が見られた。

## 本年度學部査閱

本年度學部教職査閱はトップを切つて十月三十一日大阪師團司令部附下川少將視閲の下に本學學部豫科に課せられたが學徒の教職を實戰即應の水準まで引上げる意味で相當嚴格を極め愈々その重要性を強調せられたが、本年に於ける本學學部豫科の成績は「現段階に於て相當の努力をしてゐるもの」と認められ、面目をほどこす所があつた。



豫科豫科生先平俊閣本の備主部發教團國報科豫

## がくほう抄

▽文部省檢定委員會より來學——専門部國漢科の中等教員漢文科無試験檢定出願中のところ、十一月十一日同委員會より第三學年生徒の學力檢定に來學された。

▽岩崎教授日本社會學會出席——十月卅一、十一月一、二の三日間九大に於ける日本社會學會第十六回大會に出席された。

▽森川教授研究發表——十一月廿九、卅の兩日京都帝大に於ける日本經濟政策學會第二回大會に「インフレーション」對策に於ける「一問題」と題して研究發表される。

▽片岡教授英文學會に出席——十月二十五、六兩日、京都帝大で開催せられた諸學振興會日本英文學會に出席された

## 高文合格者

本年度國家試験に本學出身者並に在學生受験者中左記諸君が合格された。

### ▽司法科

- 越智比古市(大) 大江徳次郎(専七)
- 大津 權作(専三) 大澤憲之進(専二)
- 瓦谷 末雄(専五) 木田庫之助(専一)
- 高山 倉彌(専二) 中瀬古信由(専二)
- 西浦 義一(専二) 林 俊徳(専二)
- 山口 敦一(専二) 山口 春一(専二)
- 号場 晴男(専三) 吉岡 清章(専二)
- ▽行政科
- 鹽田 忠(専一) 下西 清朝(専二)
- 中村 毅(専一)

# 五十柱追祀慰靈祭

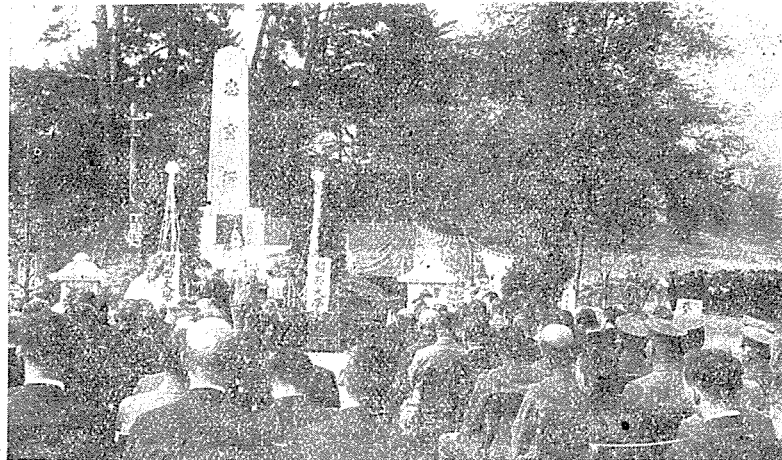
## 忠靈塔前に嚴かに執行

今次事變の勃發以來、これに参加して不幸降中に華と散つた本學關係者の一部は、一昨年千里山に建立せられた忠靈塔に祭祀せられたが、今回更に五十柱の英靈を追祀する祭典が本月一日午後二時より千里山忠靈塔に於て舉行せられた。

即ちこれら人々の中には過ぐる漢口攻略戦途次に、山西の掃蕩戦に、あるひは滿蒙國境ノモンハンの激戦に勇奮又は中、南支の戦線に出勤せられて不幸にも聖戦中途に燈れた人達であつた。この日晩秋の空暗れわたる中綠濃き千里山學園忠靈塔前の祭場には各來賓をはじめ遺族本學教職員、學生並に近府縣在住の校友代表者ら多數參集の上嚴かに執行され、神戸學長祭主となり祭文奉讀上について校友總代、在學生代表の弔辭あり、遺族はじめ各關係者の玉串奉奠あつて後三時半閉式した。

### 神戸學長祭文

願ミレバ今次事變が昭和十二年七月七日ニ勃發シテヨリ茲



(儀盛の日當は眞寫)

ニ早クモ四年三箇月アマリヲ經タリ此間我が學園ノ出身者教職員學生生徒ニシテ應召シテ部署ニ就キタルモノハ算ナク光榮アル殉國者トナリタルモノ亦タ頗ル多シ是レ我が教學精神ノ具現ニシテ我等ハ

之ヲ以テ我が學園ノ誇トシ我等ハ同學殉國者ノ功ヲ永遠ニ傳ヘ併セテ日々景仰シテ其徳ニ潤ホフコトヲ冀ヒ最キニ學園内ニ忠靈塔ヲ建設シテ過グル昭和十四年十一月一日ヲ以テ除幕式ヲ營ミタリ當時此ニ合祀シタル英靈ハ七十三柱ヲ數ヘタルガ爾後今日ニ臻ルマデ事變ニ斃レタルモノ又五十柱ノ多キニ上ホリタルニヨリ茲ニ今日ノ佳キ日ヲトシテ之ヲ追加合祀スルコトトシタリ

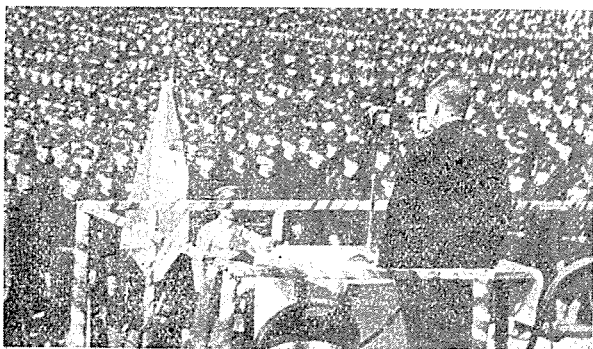
思フニ英靈諸士ハ孰レモ生前高遠ナル理想ヲ懷キテ或ハ折角學園ニアツテ教學ノ爲メニ活躍シ或ハ折角學園ニ於テ修學ノ途上ニアリ或ハ既ニ學業ヲ卒ヘテ各職場ニ就キテ抱負ノ實現ニ邁進シツツアリタルニ事變ノ爲メ方向轉換ヲ爲サザルヲ得ザルコトトナリタルモノナレバ舊體制ニ於ケル俗見ニ依レバ中途ニシテ挫折シタルモノトイフベク洵ニ遺憾ノ極ミナルガ如クナリト雖モ克ク時勢ノ變ニ目覺メ深ク國家ノ現局ヲ認識シ更ニ既ニ幾回カ實戦ニ臨ミ生死ノ境ヲ往來シテ人生ヲ大觀シ悟了シタル諸士ノ心事ニ至ツテハ決シテ斯ノ如キ輕薄低調ナルモノニハ非ザルベク今日ニ於ケル我等學徒ノ目標トスル所ハ各人ノ立身出世本位ニハアラズシテ專ラ臣道ヲ實踐シ身ヲ以テ國家ニ奉仕スルコトニ在ル所ナルガ此指標ヨリ之ヲ見ルニ於テ諸士ガ此國難ニ殉ジタルハ洵ニ能ク其使命ヲ果シタルモノトスベク此ニ無上ノ光榮ト無涯ノ満足トヲ感ジタリシヲ疑ハズ諸士ハ又實ニ身命ヲ捧ゲテ與亞ノ聖

### 報國團彙報

#### 銃後學徒の決意示し

##### 報國隊大阪地方部結成式

學校報國隊大阪地方部結成式は去る二日午前十時より天王寺公園グラウンドで舉行せられたがこの日同地方部構成員たる本學學部、豫科、専門部の各報國隊員をはじめ男女大學高專學徒一萬五千は有事即應の決意も強固に制服制帽に卷ゲートルの姿で整列、佐谷地方部主事、阪大醫學部長の開會の辭に國民儀禮に引續き、楠本大阪地方部長(阪大總長の青少年學徒に賜りたる勅語採讀、水野文部省督學官の文相訓示



業ノ礎石トナリタルモノナリ其功績ノ偉大ナルハ固ヨリ多辯ヲ要セズシテ明カナリ今ヤ諸士ノ肉體ハ此世ニアラズトイヘドモ其魂魄ハ永ヘニ靖國神社ニ將タ護國神社ニ生クルハ勿論ニ特ニ我が忠靈塔ト共ニ之ヲ仰ギ見ル無數ノ後進學徒ノ心ヲ共ニモ生ク後輩學徒ハ諸士ノ遺業ヲ繼承シテ學ニハ其完成ヲ齎スコトトナルベシ諸士以テ願スベキナリ

謹ンデ學園ヲ代表シ靈前ニ蕪辭ヲ述ベテ英靈ヲ慰ム尙クハ饗ケヨ

校友總代弔辭

本日茲ニ關西大學校友戰歿勇士五十柱靈位ノ忠靈塔第三回合祀慰靈祭ヲ執行セラル、ニ當リ校友ヲ代表シ謹ミテ一言慰靈ノ辭ヲ捧ゲマス各位ハ今次ノ聖戰ニ當リ我レ皇國ノ御楯トナラン我レ皇國ノ礎トナラント堅ク誓ヒテ征途ニ上ラレ寒風凧ヲ撃ク湖北ノ戰野ニ或ハ酷熱百數十度ノ赫赫タル炎帝ノ下ニ北支中支南支ノ戰線ニ於テ砲燧彈雨ヲ冒シテ勇マシク雄々シク奮戦サレ或ハ滿蒙ノ邊境守備ニ身ヲ挺シテ華下散リ屍ヲ大陸ノ曠野ニ止メラレテ皇國ノ御楯トシテ且又皇國ノ礎トシテ大君ノ御名ノ下ニ身ヲ捧ゲラレマシタ誠ニ男子ノ本懐トスル處デアリマセウ皇國ハ學ゲテ諸君ノ功績ヲ稱ヘ追慕シ靖國ノ御神トシテ齊キ祀リ過グル十月十八日靖國神社臨時大祭ニハ忝ケナクモ天皇陛下ニハ御親拜アラセラレマシタ誠ニ洪大ナ聖恩ニ感泣スルド共ニ護國ノ靈位トシテ崇敬ノ念湧然トシテ涌クヲ覺キ

マス母校關西大學ガ各位ノ靈位ヲ奉祀シテ日夕其ノ威烈ヲ瞻仰シ學園ノ靈域トシテ學徒練成ノ中核タラントシテキマス身ヲ滅シテ遺芳ヲ永世ニ垂ル其ノ功績其ノ威德誠ニ點頭跪拜靈前ヲ退クヲ得ザルノ思ヒ切ナルモノガアリマス黨タハ忠魂永世ニ我が學園ニ止マリ皇國ト共ニ榮ユク我學園ヲ光被セラレンコトヲ

學生代表弔詞

菊ノ馨リ高キ日ハ數多アレド霜月ノ一日ヲ今日ノ哀キ日ト選ビ定メテ合祀慰靈祭ヲ執リ行ハセラル、ニ當リ龜井其三君ノ英靈ヲ初メトシテ五十柱ノ英靈ノ御前ニ恭シク哀悼ノ意ヲ捧ゲ 兄等ノ今回ノ聖戰ニ召サレ給フヤ義ハ山岳ノ重キニ置キ死ハ鴻毛ノ輕キニ比シ勇氣凧々征途ニ就カレ或ハ困苦缺乏嚴寒酷熱ト闘ヒ或ハ鋒鏑砲火ノ下危難ヲ冒シ朝ニ一城ヲ拔キ夕ニ一壘ヲ陷ル深壕堅壘ノ間激戰勇闘シテハ君國ニ殉ジ長驅急進シテハ果敢好戰以テ身命ヲ皇國ニ捧ゲラル 我等ハ其ノ武談ヲ拜聽スルノ日ヲ指ヲ折リテ待テシニ嗚呼兄等ト齒明境ヲ異ニシ昨日ノ温容今日又見ルヲ得ズ風爽タル勇姿長ニ見ル無ク落日ニ向ヒテ立テバ滂沱トシテ熱淚ノ下ルヲ覺ユ然リト雖モ征衣ヲ闊外ニ纏ヒ屍ヲ馬草ニ包ムハ惟レ武人ノ本懐ニシテ況ンヤ其ノ烈々タル忠魂其ノ赫赫タル武勳ハ萬人ノ齊シク欽慕シテ止マザルトコロナリ 嗚呼是レ實ニ我が學園ノ榮譽ニシテ後進ニ與フトコロ亦尠カラズ乃チ兄等ガ忠烈殉國ノ至情ハ徒事ナラズ今ヤ

皇軍ノ威容ハ堂々東西ノ天地ヲ壓シ兄等ガ英魂ハ不滅ニシテ青史ニ燦然ト輝クベシ又畏クモ護國ノ神トシテ靖國ノ宮ニ奉祀セラル男子ノ光榮之ニ過グルモノナシ兄等以テ願スベキナリ 願ルニ時局ハ益々多難ヲ加ヘ一觸即發ノ機應々逼リ前途亦遼遠タリ兄等ノ英靈長ヘニ學園ニ留マリテ照臨セヨ我等誓ツテ切確奮勵以テ兄等ガ遺志ニ副ヒ世界平和ヲ永遠ニ確立センコト期ス請フ英靈幸ニ之ヲ護レ茲ニ關西大學在學學生生徒ニ代リ弔辭ヲ捧ゲテ忠魂ヲ慰ム在天ノ靈黨クハ來リテ之ヲ饗ケヨ

忠靈塔追祀者

- 龜井良三(兵庫) 昭八專二法、歩兵中尉
- 江蘇省李家圩 於テ戰死(三・五・四)
- 山川才治(熊本) 二商昭三、歩兵伍長、中支蜘蛛山方高地ニ於テ戰死(三・九・二)
- 種下常次(大阪) 昭八專一法、輜重上等兵、中支漢口附近、林家大灣ニ於テ戰死(一四・一・三〇)
- 井上正男(大阪) 二商昭九、衛生曹長、山西省解縣猪嘴崖西北高地ニ於テ戰死(一四・六・六)
- 林 千一(大阪) 昭十二專二法、歩兵曹長、廣東省潮安縣楓溪市ニ於テ戰死(一四・六・二六)
- 中野 覺(廣島) 昭九大法、輜重上等兵、漢口與地ニ於テ戰死(一四・七・二五)
- 前 廣雲(和歌山) 昭十一專二法、歩兵伍長、河北省天津縣鹹水沽附近八里台ニ於テ戰死(一四・八・二一)
- 牧田清次(和歌山) 昭十二專一商、歩兵上等兵、滿洲國興安北省ノ高地附近ニ於テ戰死(一四・八・二三)

時局問題講演會

專一・東亞研究會

專門部第二部東亞研究會では十一月七日午後六時より天六學會三階集會室に於て石原産業海運會長石原廣一郎氏を招き「東亞に關する時局問題に就いて」講演會を開催したが、多數學生の参加を得て盛大に、有意義な講演會を終つた。同夜石原氏は 獨ノ戰の發端の理由が食糧問題にあり 今冬の歐洲は飢饉に風靡されんとして あり、戰時に於て食糧確保の問題は如何に民族生存の基本たるべきか、而も 最近の日米交渉は日本の食糧園とも云ふべき南方東亞に關して微妙な動きを見せてある として氏獨特の論調と雄辯とを以て學生を魅了せしめ、次で學生の明日の日本に占むる役割と覺悟を語り二時間余に亘る講演會を終つた。

武田清隆(大分)昭十專一商、砲兵伍長  
 滿洲國興安北省ノモンハン、ハルハ河  
 附近ニ於テ戰死(一四・八・二四)  
 新本範夫(兵庫)昭十專一經、歩兵上等  
 兵、外蒙國境ハルシガル高地ニ於テ戰  
 死(一四・八・二九)  
 加部守彦(大阪)昭十一專一法、歩兵上  
 等兵、滿蒙國境ノモンハンニ於テ戰死  
 (一四・八・三〇)  
 藤原敏郎(廣島)昭十三專二商、歩兵伍  
 長、ノモンハンニ於テ戰死(一四・八・  
 三〇)  
 石垣大典(三重)專一商三年在學中、歩  
 兵上等兵、河南省滑化縣滑北鎮ニ於テ  
 戰死(一四・九・一四)  
 丸野 勳(鹿児島)昭九大法、歩兵曹長  
 江西省奉新縣治城西北高地ニ於テ戰死  
 (一四・九・二六)  
 今西治參(大阪)專二法在學中、輜重上  
 等兵、中支崇陽縣桂花樹ニ於テ戰死  
 (一四・一〇・一)  
 平井健夫(大阪)關甲商昭十、歩兵上等  
 兵、河南省新鄉陸軍病院ニ於テ戰死  
 菅原陸郎(北海道)昭十二專二經、軍屬  
 朝日新聞特派員、漢口藤本病院ニ於テ  
 戰死(一四・一〇・一四)  
 小島 茂(愛知)昭十二專二法、歩兵上  
 等兵、河北省涿源南方雁宿崖附近ニ於  
 テ戰死(一四・一一・三)  
 内藤春雄(兵庫)昭十三大英、歩兵伍長  
 北支山西省臨治病院ニ於テ戰死  
 石川 登(山形)關甲商教諭、歩兵少佐  
 山西省野戰病院ニ於テ戰死(一四・一二  
 ・六)  
 濱田 壽(岡山)昭八專二法、歩兵中尉  
 中支江西省湖口縣二〇二八高地ニ於テ  
 戰死(一四・一二・一九)  
 丸山昇造(島根)昭十三專二法、歩兵上  
 等兵、廣東省清遠縣銀邊嶺西南方石鷲  
 山ニ於テ戰死(一四・一二・二〇)  
 寺川政雄(大阪)關甲商昭四、歩兵大尉  
 廣東省清遠縣三兜松ニ於テ戰死(一四・  
 一二・二〇)  
 富井祥夫(兵庫)昭十四專英、歩兵上等  
 兵、大阪陸軍病院赤十字病院ニ於テ戰  
 死(一五・一一・一)  
 阪東勇次郎(大阪)昭二大商、歩兵准尉  
 南支潮安縣楓溪ニ於テ戰死(一五・一・  
 三)  
 住田義雄(兵庫)昭七專商、輜重上等兵  
 南支野戰病院ニ於テ戰死(一五・一・  
 三)  
 横河左武郎(鳥取)昭九專一商、宣撫官  
 江蘇省阜寧縣連水城外ニ於テ戰死(一  
 五・一・二五)  
 宍道武雄(島根)昭十一專二法、歩兵伍  
 長、南支廣西省武鳴縣那桑ニ於テ戰死  
 (一五・二・一)  
 曾我部喬文(德島)昭十專一商、歩兵伍  
 長、北京陸軍病院ニ於テ戰死(一五・二・  
 八)  
 清水 猛(大阪)昭十一專二法、歩兵上  
 等兵、北支山西省平定縣榆次附近ニテ  
 戰傷戰死(一五・二・二二)  
 岡野隆好(大阪)昭十二大法、歩兵上等  
 兵、滿洲國三江省珠奇河上流ニ於テ戰  
 死(一五・三・九)  
 大加戸恒一(兵庫)昭七大政、歩兵中尉  
 天津陸軍病院ニ於テ戰死(一五・三・九)  
 津田丈治郎(大阪)昭十三專二商、歩兵  
 中尉、中支宣興縣代家圩附近ニ於テ戰  
 死(一五・三・一四)  
 中務信喜知(大阪)關甲商大十三、歩兵  
 大尉、廣島陸軍病院ニ於テ戰死(一五  
 ・三・二四)  
 杉本道男(大阪)昭十四專二商、砲一等  
 兵、滿洲國東安省虎頭驛隊大野醫務室  
 ニ於テ戰死(一五・四・一〇)  
 藤尾張雄(大阪)昭十一大法、歩兵軍曹  
 中支江西省新建縣久駐喻附近ニ於テ戰  
 死(一五・四・一三)  
 森 繁藏(鳥取)昭九大經、歩兵大尉、  
 河北省定縣東南四十軒里楊村ニ於テ戰  
 死(一五・五・二五)  
 織田友信(大阪)昭八專二商、歩兵上等  
 兵、廣東省潮安縣登天石ニ於テ戰死(一  
 五・六・九)  
 入坂義男(兵庫)昭十四專二商、歩兵上  
 等兵、江西省連塘野戰病院ニ於テ戰死  
 (一五・六・二〇)  
 中島安一(島根)昭十二大經、歩兵中尉  
 中支宜昌附近下五龍江西南方三高地  
 ニ於テ戰死(一五・七・二二)  
 馬場文彦(大阪)昭十四專國、歩兵上等  
 兵、中支湖北省荊門縣沙洋鎮ニ於テ戰  
 死(一五・七・一一)  
 水野準二(神奈川)昭十四專二法、歩兵  
 上等兵、山東省鄆城縣候埃北方ニ於テ  
 戰死(一五・七・二三)  
 藤師寺二郎(大阪)昭十三大法、中支湖  
 北省孝感附近ニ於テ戰死(一五・七・二  
 七)  
 保崎初夫(岡山)昭十四專一商、歩兵上  
 等兵、江蘇省武進縣安家舍ニ於テ戰死  
 (一五・八・二六)  
 花月信造(兵庫)二商昭十三、歩兵上等  
 兵、湖北省野戰病院ニ於テ戰死(一五・  
 八・三二)  
 岩本 薫(兵庫)二商昭十二、歩兵伍長  
 廣東第二野戰病院ニ於テ戰死(一五・一  
 〇・一八)  
 平林 繁二(兵庫)昭十三專二商、歩兵  
 上等兵、札幌陸軍病院ニ於テ戰死(一  
 五・一〇・一九)  
 市村雅夫(兵庫)專一商在學中、歩兵伍  
 長、南支野戰病院ニ於テ戰死(一五・一  
 二・一)  
 岡崎 冠(岡山)專二商在學中、歩兵上  
 等兵、岡山陸軍病院ニ於テ戰死(一六・  
 三・七)  
 山口正芳(兵庫)昭七大法、砲兵大尉、  
 江西省高安縣魯家墟ニ於テ戰死(一六・  
 三・二八)

谷口吉彦博士 第二商研講演會

去る十一月十三日(水)午後七時より  
 天六學會三階集會室に専門部第二部報國  
 團商業研究會主催により、谷口吉彦博士  
 の「低物價政策と商業」と題する講演會  
 を開いたが、滿堂の學生は同博士の説く  
 高適な卓見にひき入れられ、非常な盛會  
 の裡に同九時頃解散した。

學部各科三年生 修練旅行

十一月八日學部報國團修練部の手で新  
 卒業生のための修練旅行を舉行、コースを  
 大和路へとり多數の參加學生を得て有意  
 義に終了した。

藝能發表會・音樂會

專一・學部の手で

報國團の結成以來、學内藝能發表を行  
 ふと共に學生の情操教養のために資する  
 ところ大なるものがあつた専門部第一部  
 藝能部では新に學外進出發表を行ふ事と  
 なり、十一月十二日午後六時より信濃橋  
 岡島會館に於てその第一回を舉行した、  
 同會は二部に分ちハローモニカ、マンドリ  
 ンを中心に演奏會を行ひ、中間に脚本發  
 表を行ひ、盛會裡に散會した。  
 又學部音樂部洋樂班でも同右會場に十  
 四日午後六時より所謂音樂會を開催、關  
 西學生音樂界に名をなす同班の事として非  
 常に盛會を以て終始した。



# 校

## 支部新設

今回左の通り奈良支部が新設された。  
詳細別項

- 一、奈良支部 昭和十六年十月二十六日
- 支部長 北浦圭太郎
- 副支部長 福本 一 木村末松
- 支部事務所 奈良市北御門町五 福本一方

## 常議員會開催

十一月六日午後六時より天六學會會議室に於て校友會常議員會開催、會則第二十三條により新に設立を見たる廣島、香川、姫路、奈良の四支部の承認、前會開催以後に於ける校友會事業の報告のち昭和十六年度校友總會並に評議員會開催の件、會則一部改正の件につき協議し、午後八時閉會した。

尚校友總會は別項の通り來る十一月二十三日(日)千里山學舎に於て開催と決定した。

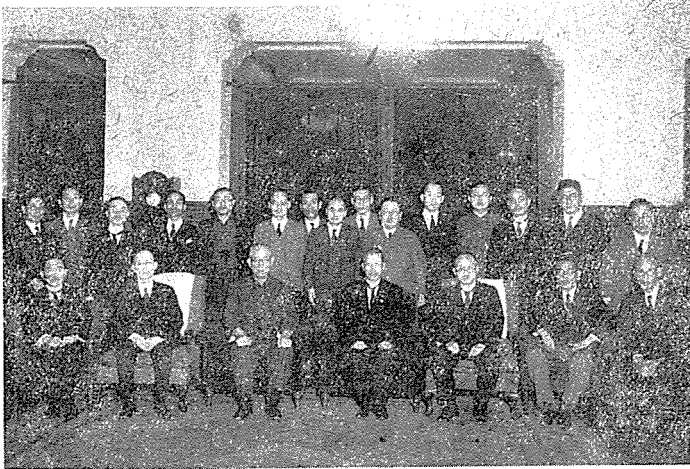
- 出席者——内藤正剛、岩崎卯一、植田完治、櫻本信雄、桂忠雄、柏元孝治、河村宣介、神屋敷民藏、里見復二、神保敏男、角田好太郎、高梨乙松、中村忠夫、原田庶太郎、春原源太郎、松本茂三郎、森川太郎、山崎敬義

# 友

## 近府縣支部代表

## 懇談會開催

校友會が去る昭和十三年に再組織されて、後れ馳せ乍ら活動を始めて三年、校友會の發展は母校關西大學をますます隆昌ならしむる所以なりとして、會長神戸學長始め役員諸氏の献身的な盡方と、近府縣支部代表懇談會



會員各位の理解ある援助によつて從來の面目を改めつゝあるが、尙一層完全な了解は本會の基礎確立に須要にて、本部支部の代表の隨意なき意見の交換の機會を望んでゐた、偶々去る十一月一日千里山學園に於ける忠靈塔第二回合祀慰靈祭執行を機に、同慰靈祭に參列ののち、同夜五時より大阪今橋五丁目「大阪俱樂部」にて懇談會を開催した。出席支部九、代表者十四名、本部側九名、晚餐を共にしてのち懇談に移り、神戸會長より本會の成立、經過、現狀を報告し、更に母校學長として質的に向上されつゝある母校の現狀を具體的に述べ、御援助と鞭撻の容れざらんことを希望して挨拶とし、常任幹事松本茂三郎氏座長として議事を進め、現下に於ける校友會事業、本部支部の緊密なる連絡方法等につき討議し、尙本部の統一した指導精神の確立支部の會合には講演講師の派遣、校友俱樂部の設置等につき、又支部發展の爲には基本金の造成が必須不可缺等熱心なる討議を行ひ、最後に母校關西大學に對して「校友會本部並に支部の事業は成るべく自給自足するも大學よりも適當に補助せられたし」と決議し、午後八時散會した。因に當日の出席者は左の通りである。

- 支部側  
大阪(内藤 正剛)  
堺 補野 泰夫 淺香妻太郎  
岸和田 辻野 新一 岸田 久馬  
京都 荒賀 勝平

- 西宮 雜古 貞雄 丸木利喜造  
川邊 佐藤 清 安井 章吾  
芦屋 森塚 圭城  
奈良 福本 一 奥田 甚一  
和歌山 高垣 善一  
本部側  
神戸 正雄 内藤 正剛 桂 忠雄  
櫻本 信雄 角田好太郎 松本茂三郎  
森川 太郎 里見 復二 神屋敷民藏

## 奈良支部發會式

菊蕪る十月二十六日橿原神宮大鳥居前ニコニコ會館に於て奈良支部創立總會を開催した。これは最近校友會の發展と共に各地支部の活躍目覺しき折から奈良に於ても以前より支部設立の希望が多かつたので今回遂に發會の運びになつたのである。

去る十五日午後六時より奈良ホテルに於て發起人會を開催、防空演習中であつたが不便な柳生村より明治四十二年卒業の大先輩や高田、初瀬の遠方から駆けつける愛校一途の人達十三名、發會につき種々協議を重ね、更に十九日午後五時より再度同ホテルに集會の上詳細を決定せられた。

同日本部よりは會長神戸正雄先生、神屋敷民藏氏の御來駕を得て、先づ一同橿原神宮に參拜、神前に國民儀禮を行ひ臣道實踐に挺身すべき誓ひを終つて發會式場ニコニコ會館に至る。開會を宣し、福本

一氏を座長に會則を審議し次で支部長に代議士北浦圭太郎氏を推し、同氏から役員

事務所と役員

- 事務所 奈良市北御門町五福本一方
支部長 北浦圭太郎
副支部長 福本 一 木村 末松
幹 事 東川保治、齋藤信吉、田守

- 金司、木村義治、眞柴長三、太田
又兵衛、川田新一、和田俊逸、瀧
邊文和、山本誠之助、奥田甚一、
福岡良雄、角谷喜代次、千田茂治
阪本佐太郎、塚原周、辻本徳光、
奥村肇、山内喜八良

大阪支部總會

校友物故者の法要

霜月とは申し乍ら菊蕪る去る九日の日曜に大阪支部では總會と戦役將士の忠靈並に校友物故者の法要を兼ねて會員四十

一名が靈峰高野山に詣でた。即ち前日の悲觀的な天氣豫報をよそに秋晴れの空の下を朝八時廿分南海難波

國民の科學思想

十月講演會に別辻氏力説

前回の「新兵器に就いて」に引續き十月の月例講演は十月二十三日午後六時より大阪商船技術部長和辻春樹工博の「造船と科學」といふ演題で再度自然科學面の認識に資するべく開催せられたが、毎回多數校友の参加に加へて今回は甚だ盛大に舉行せられ、熱心に聴講せられる校友多數を得て益々今後この種催しに嚆望せられるところ大なるを痛感したが、同夜博士の説かれるところを要約すれば

▽……造船學は造船獨自の學と、一般其の科學とに分けられるが、造船科學

驛發海抜二千尺、一千百余年の間法燈連綿たる現世の淨土高野へ向つた、女人堂から坂を下り目的地普賢院に到着當院は天正の間、尼子の重臣山中鹿之助幸盛の潜居した處とか、院の森寛紹師は本學校友で、只今高野山中學の重職に就かれ御繁忙にも不拘種々御配慮に預つた。

先づ本堂に導かれ國家の安泰と校友物故者の原福を祈念して後、總會懇親會を開催、別棟講堂で眞言密教學の權威、高野山大學教授小田慈舟先生より眞言の本意鎮護國家の理念と金剛界曼荼羅、胎藏界曼荼羅及び大日如來と弘法大師の三教指歸に亘り御高説を拜聽後、方丈に於て晝

には技術の問題が含まれてゐる。これは世界があげて武裝してゐる今日、その國の海軍はその國の力によつて造らるべきで茲に國內的諸種の工業の發達が求められるが、譲つて我が工業は獨米などの諸國に比して遜色なきまでの水準にあるかと云ふに必ずしも全的に肯定は出来ないだらう。

▽……造船が國內的工業の水準に依存する以上國內諸工業の進展は重大な意味を持つが、これは畢竟するに國民の科學的普及の程度による。現在「獨逸が造船力はその進撃と同じ速力で爲されるであらう。而も戦後その競争國はが米國と日本とであらう。」と廣言す

食、懇親會に移り中務副支部長の會務報告及び役員改選に關する提議あり決定して院の庭前に記念撮影を行ひ後、自由行動とし、楓、银杏などの燃ゆるが如き紅葉を賞でつ、山内所在の伽藍堂塔を訪れ或は大師入定の奥の院に詣で路傍の苔むす大名等の墓石に往昔豪華の跡を偲びながら一日法悦に浸つて下山したのは日没近くであつた。

奉天支部

十月十一日午後六時より平安廣場の明治製菓地下室グールで奉天支部十月例會を開催、出井幹事長は病氣で、又直吉幹事は事故で缺席され淋しかつたが、互に

に至らしめたものは獨逸國內工業發展のために過去數十年間に費された研究費とこれによつて啓發された國民への科學思想普及にあると云へる。▽……私の二十數年の造船經驗によれば、日本の科學と技術は低いといふ結論になる「現代科學戰の決定は研究所と研究費の高によつて決せられる」とソ聯のプラウダ紙の報ずる如くであるとすれば、日本の現状ではどうなるだらうか。科學、技術はこれを専門家にのみ委ねるべきではいけないので國民の科學技術への理解を一層深める必要がある。と説かれ非常な感銘を興へて九時散會した。

- 竹西 宗助 永田 眞雄 中務 平吉
永井 量一 中村 岩見 中塚 勝治
野崎勇二郎 山根 瀧藏 八木萬太郎
安井 章吾 山崎 敬義 前田 常好
松原 健一 藤原 光治 兒玉 善吉
後藤田徳太郎近藤 友房 赤羽豊治郎
菊池金次郎 岸本 芳夫 三浦 三郎
正田 麻治 志野覺治郎 引野 秀春
森 芳 松 鈴木 武夫

- 當日出席者は左記四十一名(いろは順)
今田 光臣 一海 景春 馬場 弘道
橋本 鹿藏 西本 寛一 西原新太郎
大崎萬太郎 阿本 義男 桂 忠雄
河村 宜介 可野敬四郎 神屋敷民藏
吉木 留喜 吉川芳三郎高松長左衛門

人生を語り、家庭を語り時局を語りあつて和氣満堂實に楽しく學歌を合唱して散會したのは九時であつた。當日の出席者は堀澤顯問を中心に牧野、山下、五島、野村、多久、飯田、寺町、黒田、岩佐の諸氏である。

福岡支部の集ひ

校友會福岡支部では同支部の發展に貢獻した會員深谷茂氏が福岡地方裁判所判事から佐伯區裁判所へ榮轉した送別の宴を兼ねて秋季例會を九月十四日夕、福岡市内一はし萬で開催

池田支部長を初め淺沼、深谷、八田、久井、藤野、宮崎、竹島、山本、馬場、石橋、根津

十二名出席、池田支部長の挨拶、深谷判事の謝辭があつて博多の名物水たきをつきながら盡きぬ歡談に初秋の一夕を過ごし母校の萬歳を叫んで閉會した。

根津幹事報

秀麗會の記

第六十四回——八月三日、ラヂウム温泉で行はれたが、今日の秀麗會は母校から學生が來るといふので少し繰上げて歡迎會兼秀麗會と決つたので、當日荒川、寺田の兩君が學生を迎へんと大連驛へ行つてみると二人來る筈のものが一人足りない。一人で大連驛に懐しい母校の制服制帽姿を見たのは石田俊夫君、學部經三であつた。

夕方からラヂウム温泉で一風呂浴びて

後の寛いだ氣分で石田君を中心に歡談、本月初出席の實業野球團のスターブレヤ一西村幸生君、野球フアンの校友に取巻かれて大モテだ、就中室山、山下兩氏はいとも御満悅の態と拜したのは目が目を學生を前にして國史に立脚せる「神國論」を明快な論理と重厚な口調を以て諄々として説き來り説き去る高濱支部長の風貌は正に神韻飄渺たるものがあつた。

當日の出席者 石田俊夫君、高濱、室山、池内、山下、萩原、濱島、貴村、荒川、西村、吉村、木村、滋、前川、豊永、川端、秀島、寺田

第六十五回——九月十八日、寺内通の海務協會に開催、この日は了度滿洲事變記念日、忠靈塔秋季招魂祭當日として一日中酒無日と決定せられたので、全市民いとも嚴肅裡に一日を勤勞に終始したのであつたが、偶々秀麗會の例會日にも當りこの上もない意義ある集ひとなつた、當夜集るもの

高濱、室山、高木、川野、伊達、秀島、岩本、北條、萩原、豊永、松田、吉村、萩、平井、寺田、高階、荒川、竹若の十八名、一杯の紅茶と粗肴で夕飯に代へ、八時三十分折から響く全市のサイレンで一同起立、皇軍將士に對する限りなき感謝の默禱を捧げた。十月は秋季總會にも當るので少し涼しくはあるが、戸外で鍋でもつかうと衆

議一決、郊外星ヶ浦の月を賞で、大いに討議をふくらまそうと云ふ事になり、各散した。

會員消息

氏名下の數字中、漢字は大正年數、算用數字は昭和年數を示す、又括弧内にある消息は業務動靜

大法

伊藤 新治(3) (堺消防署長) 伊藤 忠雄(16) (上海特別市協陸路望原莊中寮二二五號室) 牛尾 正人(16) (東京市淀橋區戸塚町一ノ一五三、法輪寺内)

砂田 節雄(14) (三島郡春日村倍賀四六八) 谷川 康衛(11) (南河内郡長野町長野五七八) 津村 雄吾(9) (東京府酒類販賣會社)

羽立 弘勝(6) (關西製綱會社) 廣田 弘應(8) (山屋商店支配人) 松田 久雄(13) (大連長事會社) 三谷 久男(6) (船場署) 水間 通夫(16) (東京市本郷區台町二七)

山下 重彦(14) (住吉區住吉町一二七) 朝田 良一(11) (大阪市立東商業學校) 教諭

深尾 弘(16) (内務省警保局警備課) 堀毛 清(11) (京城府新堂町二二六ノ一五、北鮮合同電氣會社京城事務所) 森 直行(11) (齊々哈爾濱師道學校)

伊東 祐一(3) (京城府孝子町一七八) (京城日報社) 池田 武雄(7) (西區江戸堀北通五丁目、科學工業新聞社) 吉村 立朝(15) (小川光子嬢と結婚、小

自適當の物品を持ち寄る事にして九時解散した。

大商

村山 馨行(9) (東京市大森區市野倉町一七五) (東京工作機製造會社販賣課長) 安田 正治(14) (兵庫縣武庫郡鳴尾村砂濱新田一〇二ノ四九) 大田 義章(12) (兵庫縣武庫郡鳴尾村砂濱町新田七)

竹下 文雄(13) (神戸市葦合區岩屋南町五ノ三、日本輪業ゴム會社工務課) 萩 武(16) (大連市綠山町一、大連實業團野球場同宿所) 天野 實(8) (天津特別一區中街四〇號B、滿洲土地開發會社天津出張所)

尾久葉三平(S) (桂木と改姓、住吉區鷹合町一九) 合田 實夫(15) (滿洲國通化省通化街二道江、東邊道開發會社人事課) 八田 發藏(16) (東京市本郷區菊坂町四矢部宿方)

山下 博(16) (北區東野田町七ノ五一) (三國航空計器製作所庶務課) 渡邊 博(8) (十一月三日大阪偕行社に大村聰子嬢と結婚) 綿谷 敏雄(16) (東京市小石川區原町一、二、八木キヨ方)

專二法

有藤 立生(6) 新京市建和胡同一〇七

家村 島彦(8) 鹿兒島縣薩摩郡高江村  
高江(農業)

榎阪 嘉之(11) 西淀川區塚本町三七二  
小川 壯一(11) 神戸市須磨區大手町六  
河内 曾平(11) 神戸市神戶區下山手通  
五ノ九一、田中方(兵庫縣廳)

木村 政勝(9) (大和紡績會社)  
小谷 守(11) (日華實業會社を辭す)  
小松 延秀(9) (臺灣臺南州警務課長)  
下西 清朝(12) 西區江戶堀南通二ノ四

高見 榮三(5) 高田と改姓、住吉區阪  
南町東一ノ四三  
堤 新吉(明39) 熊本縣鹿本郡山鹿町  
九日町一〇六九

土岐 友市(15) 西山と改姓(神戸市湊  
區福原町)ノ一、播州銀行神戸支店)  
中林 善三郎(14) 新京市朝日通第五錦七  
九五號  
長尾 勝三(14) 豐中市櫻塚元町一ノ三

平井 重信(16) 西區立賣堀南通六ノ七  
福島 敏雄(15) (神戸市神戶區海岸通  
一、大阪遞信局海軍部神戸出張所)  
松岡 邦武(13) (北支新民會泰安道總  
務課長)

松本 小三郎(15) 東淀川區國次町四三九  
中植卷一ノ方  
宮川 仁(16) 東京府下三鷹町上連雀  
八ノ八  
村井 久(14) 北京内六區陝山門大街  
一四號ノ一〇

毛利 清太郎(四) (大阪府會議員)  
森 清一(4) (浪速區反物町一、三四  
八、森耐火鐵業所)  
八木 正一(6) (今富堂)

横山 藤近哉(五) 青島齊東路四〇號(中  
堀 德太郎(10) (大阪鐵工所揚鐵機課)

華全國火柴銷聯會社

白川 忠勝(7) 吳市岩方通四ノ三ノ二  
中山 一夫(13) (江蘇省銅山縣柳泉站  
柳泉炭礦業所)

西田 健三(8) 神戸市葦合區旗塚通三  
西田 市一(8) 北區郡島本通八ノ三六  
星安藤四郎(11) 東京市世田谷區上北澤  
三ノ八〇五、久富方  
溝上 久夫(16) 東京市澁橋區柏木一ノ  
四七、樋口方

村岡 慶喜(3) 福井縣今立郡國高村村  
小倉 正雄(14) 泉北郡高石町羽衣六四  
一ノ二、井川利七方  
大西 秀雄(四) (兵庫縣水上郡柏原町  
柏原職業紹介所長)

大西 良介(13) 北區小松原町一九  
大矢 五朗(11) (門司市港町二、大阪商  
船内、大阪海上火災保險會社門司營  
業所)

王藏 眞市(4) 住吉區阪南町四ノ二四  
栗本 千藏(15) 旭區新森小路南三ノ二  
田村 格治(4) (泉南郡貝塚町澤九三  
九、東洋紡績會社工場)

巽 啓三(16) 新京特別市北安路四〇  
八號、福島忠志方(滿洲麻袋會社本  
店)  
堤 藤彦(11) 藤澤と改姓(大分市名  
ケ小路一九一、安田生命大分支部)  
時水 保雄(16) 橋本と改姓、南區南炭  
屋町三七

等々力 帖正(15) 上海黃陸路三四號、田  
中有藏方(同漢口路一三〇號、昭和  
海運會社)

堀 德太郎(10) (大阪鐵工所揚鐵機課)

專二商

堀川 卯三郎(6) 布施市金岡一ノ三  
山形 仁三(13) 東京市澁谷區千駄谷五  
ノ八五六、工藤千代吉方

下野 大七(16) 東成區北生野町二ノ八  
九、町高綱方

昭五 專法 高見 榮三 高田 榮三  
昭八 專一商 尾久 榮三 桂木 三平  
昭十一 專二商 堤 靖彦 藤澤 靖彦  
昭十五 專二法 土岐 友市 西山 友市  
昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

改姓名

昭五 專法 高見 榮三 高田 榮三  
昭八 專一商 尾久 榮三 桂木 三平  
昭十一 專二商 堤 靖彦 藤澤 靖彦  
昭十五 專二法 土岐 友市 西山 友市  
昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

昭十六 專二商 時水 保雄 橋本 保雄

訃音

高橋 大善 (昭12專二商) 九月十五  
日逝去、家族は神戸市須磨區平田町  
二ノ二〇、西田久太郎氏(父)  
立光 長發 (昭13專一商) 十月十六  
日午後四時逝去

高橋 大善 (昭12專二商) 九月十五  
日逝去、家族は神戸市須磨區平田町  
二ノ二〇、西田久太郎氏(父)  
立光 長發 (昭13專一商) 十月十六  
日午後四時逝去

高橋 大善 (昭12專二商) 九月十五  
日逝去、家族は神戸市須磨區平田町  
二ノ二〇、西田久太郎氏(父)  
立光 長發 (昭13專一商) 十月十六  
日午後四時逝去

高橋 大善 (昭12專二商) 九月十五  
日逝去、家族は神戸市須磨區平田町  
二ノ二〇、西田久太郎氏(父)  
立光 長發 (昭13專一商) 十月十六  
日午後四時逝去

高橋 大善 (昭12專二商) 九月十五  
日逝去、家族は神戸市須磨區平田町  
二ノ二〇、西田久太郎氏(父)  
立光 長發 (昭13專一商) 十月十六  
日午後四時逝去

高橋 大善 (昭12專二商) 九月十五  
日逝去、家族は神戸市須磨區平田町  
二ノ二〇、西田久太郎氏(父)  
立光 長發 (昭13專一商) 十月十六  
日午後四時逝去

高橋 大善 (昭12專二商) 九月十五  
日逝去、家族は神戸市須磨區平田町  
二ノ二〇、西田久太郎氏(父)  
立光 長發 (昭13專一商) 十月十六  
日午後四時逝去

生島 藤藏 岩井 秀一 小池照太郎  
奥澤 澄 後藤 俊雄 四井 義規  
江川 傳次郎 寺島 由松 上杉治三郎  
阿川 甲一 永野 吾一 前田 卯吉  
金澤要三郎 原國 政明 河崎 隆常  
菅野 誠孝 塚本利三郎 正井 清春  
野崎 勇二郎 小住三之助 本田 孝一  
河田 茂秋 津川彌三郎 加賀田慶治  
中井 勝 西山 光一 加藤 紉  
小角太一郎 猪飼水太郎 松村 作二  
村田與次郎 崎谷 三郎 大橋 清信  
南出 弘 佐々木音滿 成川 政雄  
赤木 輝夫 高尾源太郎 遠藤 文岳  
眞田 俊雄 松村源治郎 滿田清四郎  
德田 高二 古本 宗作 長谷 正事  
渡邊 保一 原田 等 木村 基  
杉本 英和 東 真次郎 三輪與四郎  
北藤 秀照 井上 真一郎 越智 祐男  
山川 三郎 西田 竹松 鮎子田繁太郎  
山濱 信夫 鈴木千代松 岡本 至徳  
橋本 好三 井上 剛一 菊田慶太郎  
大西 幸夫 中村 敬直 加治 秀雄  
岡本 直正 岸田 久馬 森脇 道尾  
川上 道雄 香西 正巳 淺利 義文  
佐藤 克巳 喜多 恒雄 志津榮治郎  
岩岸 巖 九門信次郎 依田 六郎  
藤井 政治 牧村 貞彦 田中 八藏  
山本 弘吉 西川 敏春 酒井 潤三  
白井 要三 大塚 實雄 藤井 忠夫  
西本 管見 淺沼 猪助 坂口 光廣  
加地 清貞 瀨戶 茂夫 篠田 義雄  
御下 正 鶴飼 正一 篠田 義雄  
松本 清隆 鳥巢 新一 金光 萬録  
野村 其輔 補山信太郎 遠藤 富雄  
戸部 智夫 津田 辰次 野村 廣義  
吉本 節 高木龜太郎 永橋 泰男  
岩田 賢一 谷田 良雄 福田 泰三  
藤本 一雄 清水 萬次 (以下次號)



南 方 通 信

ボルネオのゴム園

元 島 巖

(昭十一專二法幸)

なければならなくなり、目下四、五十名の苦力を使つて馬力を掛けてゐる次第です。

土人相手に平々凡々として暮してゐますが、段々土人化して行く事が自分でも分るやうです。法律を勉強したお蔭で苦力同志の争ひを圓満に解決してやる事がしばしばあります。苦力は支那人、馬來人、瓜哇人、ダイヤ族を使用してゐます。一ヶ年契約で移動しない方法を執つてゐます。ダイヤ族は野稻作りの時一週間位休暇を興へてゐます。眞面目でとても柔順です。これにひきかへて馬來人は非常に狡猾ですが、瓜哇人は農業に適し眞面目で利口です。支那人は一體に人が好い様です。

い位です。燕も居りますが、内地の様に尾が二つに分れてゐません。雀は一疋も居りません。但し新嘉坡方面に行けばおります。鳥の白いのも居ります。獸では猪、鹿、猿、熊、豹などで熊、豹は極く稀にしか居りません。

歐洲戰亂の影響を受けて當地蘭印度も聊かせちがらくなり、貿易統制のため物價の騰貴を來たし、日常の生活も苦しくなつて來ましたが歐洲の事を思へばまだ楽なものです。牛乳もコーヒもコ、ア、砂糖、石油等原産地の性もあります

私達の住んでゐる所は、とても靜かな山の中です。チャンゲルも大方開墾されてしまひ、川岸に沿ふ一帯は護謨山ばかりです。日本人のゴム園も十ヶ所位あります。大抵の人は亡父が誘導した人達ですが、皆相當にやつて居られます。其中當園が一番古く既に三十有餘年経過して居ります。七十五ヶ年間の租借地になつて居りますが、期限満了と共に更新出來る事になつてゐます。

が、とても豊富です。今回日蘭會商が開催されましたが、彼我の主張が一致せず満足な結果を得ずして、芳澤使節が引揚げられた事は新聞紙上に於て御承知の事と思ひますが、今後、日蘭印關係が疑心暗鬼的な心境を棄て、眞心から提携して行ける様に微力ながら國民外交の實を擧げて行き度いと念じて居ります。鐵道省國際觀光局から發行される日本案内のパンフレットが時折送附して來ますので有効に活用して眞の日本の姿を隣人のために知つて戴き度いと願つてゐる次第です。

目下ゴムは大方アメリカ方面に多く輸出され、日本邊りにも割當られてゐる様です。ゴムは農園ゴム(コンセンション園の部)と土人ゴムと二別されてゐて、前者の輸出許可證をライセンスと稱し後者のそれをクーゴンと稱し各々有價證券としてそれ自身賣却されま

すし、仲々便利なもので之が發給されてから急に土人の金満家出來るし、私達も大分潤はされました。併し最近になつて農園ゴムの方はライセンス暴落の爲、餘儀なくタッピング(切付)し

内では苦力頭に使つてゐますが、仲々忠實で感心してゐます。不幸な事に國と國とは争つてゐますが、國民同志は嬉しい氣持で交つてゐます。今度平和になつたら百年の知己が出來る事と信じます。そうなる様に私達海外に居る者が努力しなければならぬでせう。

病氣としてはマラリヤ熱、チブスが有る位です。邦人發展には適當してゐる土地と謂つても過言ではないでせう。唯娯樂機關が少ないのが物足りない位です。くどくどと思ふまゝを御紹介しました御参考になれば幸ひです。どうか母校の人達が南洋に發展されん事を心からお祈り致します。

當蘭印の地にも幾多の校友が居られる事と思ひます。之等の人々と大にしては邦家ため、小にしては母校のために一致協力して働く事が出來れば幸ひだと思ひます。

家の圍りには色んな鳥が囀つてゐます一番多いのが九官鳥でせう。やかまし

# 關西大學研究論集

第十一號

各篇A五判一四〇頁  
定價 壹圓  
送料 十二錢

## 法律・政治篇

(昭和十六年十二月發行)

國家權威の分析

岩崎 卯一

國務と統帥と軍政との關係  
並にその調整

吉田 一枝

ダストルダ中立の形成  
—その歴史的並に政治的斷面—

川上 敬逸

共犯論への一考察

植田 重正

ナチスに於ける  
家庭生活の新體制

福島 四郎

株主議決權の筒數について

野村 次夫

組織・契約

國歲 胤臣

## 經濟・商業篇

(昭和十六年十二月發行)

財政の使命と其の達成

神戶 正雄

—財政金融基本要項に觸れて—

計畫經濟論序說

正井 敬次

貨幣理論の課題

森川 太郎

フロイゲルスの政治經濟學

赤羽 豐治郎

中小商業の統合に就て  
—統合の形態と必然性—

加藤 金次郎

明治中期取引所制度概要(上)

佐伯 三郎

株價對策と  
日本協同證券の役割

三木 純吉

## 文學・哲學篇

(昭和十六年十二月發行)

After Many A Summer  
205p

堀 正人

陵 慕

岡本 勝治郎

蘆庵と景樹(下)  
—用語論を中心として—

安川 安太郎

文藝批評の困難

片岡 甚太郎

「ヘンリー四世」に現はれたる  
フォルスターフに就いて

山田 松太郎

Canterbury Tales 説話中の  
digression 205p

廣瀬 捨三

## 近刊豫告

### 關西大學學會

電話吹田一三二番  
振替大阪二一八七五番

吹田市千里山

大阪區裁判所  
調停主任 判事 稻井義夫著

# 新刊 調停讀本

B六・二三八頁  
價一・八〇錢  
送一〇錢

本書は我國裁判所に於ける現行各種調停制度を平易、簡明に纏り良く叙述したるものにして、現論に走ることを避け實務上の取扱に重きを置いたもの。一般實務家、調定委員必讀の書である。然し、本書は早近なる通俗書では無い。其の現行法に基きたる理路整然たる解説は法律専門家に一指針を與へるものである。

## 主 要 目 次

- 第一章 緒論
- 第二章 調停制度の長所
- 第三章 調停の目的物
- 第四章 管轄
- 第五章 調停機關、調停附屬機關、調停補助機關及び調停共助機關並に勸解者
- 第六章 調停當事者、總代、代理人、補佐人及利害關係人
- 第七章 調停手續 第一節 調停不公開 第三節 調停手續の開始 第四節 調停手續の進行 第五節 調停手續の停止 第六節 調停手續の終了 第八章 調停成立の効果 第九章 調停記録の閲覧若は騰寫及其の正本、謄本、抄本 第十章 調停費用 第十一章 調停委員會の仲裁判斷
- 「附録」第一部 主要調停關係法規 第二章 各種調停申定書式

## 發 兌 元

大阪市北區會根崎上三丁目八  
振替大阪三一九七二番  
東京市神田區駿河臺三丁目五  
振替東京八一三三八番

昭和十六年十一月十五日發行

關西大學學報 第百九十四號

大阪商工會議所  
經濟法規相談所 法學士 中村正三著

# 新刊 有限會社實務の手引

價一・八〇  
一・一四

企業合同と云ふことは近來の重要事である。蓋し國家精力を最有効に發揮せねばならぬからである。而して有限會社は企業合同の形態として最も新しい形態であり又最も簡易にして便利な方法である。本書は其の設立手續を分り易く説明したものである。

## 質 疑 應 答

大阪商大 教授

陶山誠太郎編著

# 製造工業原價計算の解説

價一・七〇  
一・一〇

— 適正原價は製造工業の生命線である —

製造原價を決定するものは言ふ迄もなく原料、質銀、間接費等である。製造原價の低減は何により得らるゝやと云ふに、冗費の節約に負ふ所極めて大である。合理的なる冗費の決定こそ原價計算の基礎を爲す。此點は所謂總原價に於ても同様である。先に企業院に於て製造工業原價計算要綱草案の發表せらるや、各方面に多大の關心を誘致し其の解説書の要望大なるものがある。蓋し適正原價は製造工場生命線であるからである。

株式 會社 大 同 書 院